

こころふれあう市民のつどい講演会

トークと歌

12月4日～10日は人権週間

1948年、国連は世界人権宣言採択を記念して採択した12月10日を「世界人権デー」と定めています。そして日本の法務省では、その1週間前（12月4日～10日）を「人権週間」とし、世界人権宣言の意義を訴えるとともに人権尊重の考えの普及高揚に努めています。今回で55回目を迎える「人権週間」には、各地でさまざまな行事が実施されますが、播磨町でも「こころふれあう市民のつどい講演会」が実施されます。

今回の講演会は、「平和の大切さ」「命の尊厳」について心にしみるメッセージをいただける、すばらしい講師をお招きしています。ぜひ、ご参加ください。

講師 **新谷のり子さん**

(歌手) 「フランシーヌの場合」(デュエット)

演題 「私の出逢った唄たち」



▲新谷のり子さん

無料

日時 12月7日(日)
午後1時30分～3時30分
(午後1時開場)

場所 中央公民館 大ホール

主催 播磨町・播磨町教育委員会

共催 播磨町人権・同和教育研究協議会

協力 兵庫県聴覚障害者協会、手話サークル
はりま、要約筆記ひまわり

問い合わせ 生涯学習課 0794(35)0565

新谷のり子プロフィール

北海道函館生まれ。1969年、ベトナム戦争に心を痛めて自殺したフランシーヌ・ルコントをうたった「フランシーヌの場合」でデビュー。80万枚をこえる大ヒットとなり、各テレビ局の新人賞を受賞。時代の心を代表する歌手として、多くの支持を得た。

その後、国内各地で、戦争の悲惨さ、差別を受けている人々やハンディキャップを背負った人々の声、自然環境などをテーマにしてコンサート活動を行い、「命の大切さ」と「心の大切さ」を訴え続けている。さらに、シリア・レバノン・パレスチナ・ニカラグア・ブラジル・ロシア・中国・ベトナム・ペルーなど諸外国にも活動の場を広げて活躍中である。

著書としては、「フランシーヌはたち」「反戦歌」、アルバムは「祈り」「ちきゅう」などを発表している。

講演内容

パレスチナ・イスラエルの戦場、カルカッタ、マザーテレサの施設、世界の子供たち、阪神・淡路大震災などのスライドを見ながらのお話、そして、「フランシーヌの場合」をはじめ「地球」「イマジン」「ある日の新聞に」(障害者から募集した歌)など数曲の歌を披露。映像あり、歌あり、トークありの心に残る講演会をお楽しみに。

人権週間で、中央公民館ロビーにおいて、播磨町内の小・中学生の人権ポスター・標語を展示しています。ぜひ、ご覧ください。



▶ 播磨南中学校3年 藤井ゆきえさんの作品

3年目を迎えた「いきいきフォーラム」

つどって・はなして・つながって

今年も各自治会で、「よりよい人間関係づくり」を目指してさまざまな取り組みがなされています。その一端をご紹介します。

古田東自治会



▲「ふれあい・にこにこサロン」の様子

今年は、高齢者と子どもとの交流をテーマにして、「ふれあい・にこにこサロン」を企画しました。自治会役員、いきいき活動推進委員、民生児童委員、ボランティア、子ども会役員の方々がお互い協力し合ったお陰で、当日は約60人の参加があり、高齢者と子どもたちの「協働」で、牛乳パックを利用したコマやマフラーを作りました。「子どもたちからエネルギーをもらった」「わたしたちも計画から参加したい」といった高齢者の方々の喜びの声がありました。

川端自治会



▲「あいさつは大切」と意見が一致

広報配布日に役員や班長30数人が公民館に集まります。せっかくの機会ですので、何度かじっくり話し合う場をもっています。8月は「いきいきフォーラム10のヒント」から、「あいさつは心のオアシス」を話題に話し合いました。近所同士よく話し合っている地域には泥棒が寄りつかないといった情報もあり、お互い声を掛け合うことの大切さを話し合いました。11月下旬には、家庭教育をテーマにして話し合う予定です。